

ANNUAL REPORT 2015



Entrepreneurial Training for Innovative Communities

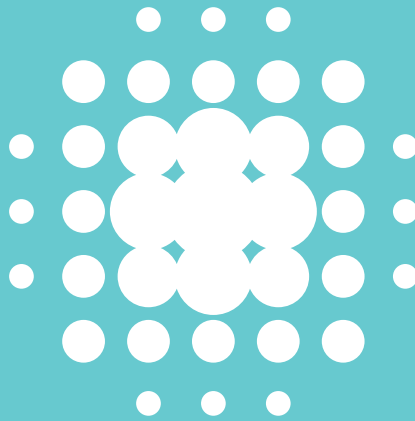
**ETIC.**

# MISSION.

ミッション

## Entrepreneurial Training for Innovative Communities

変革の現場に挑む機会を通して、  
アントレプレナーシップ(起業家精神)溢れる人材を育みます。  
そして、創造的で活力に溢れ、ともに支え合い、  
課題が自律的に解決されていく社会・地域を実現していきます。



### 「アントレプレナーシップを広げることが、社会をより良くする」

アントレプレナーシップは、起業家だけが持つ特別な能力ではありません。所属や立場に関わらず、これからの時代に必要な仕事を、自らつくり出していく意思と力。既存の価値観やものの見方にとらわれずに、自らの意志によって意思決定をし、アクションを起こしていく心のあるかた。現代の日本のような大転換の時代において、アントレプレナーシップを広げていくことこそが、社会に多様性を生み出し、社会を一步でもより良いものにしていく鍵だと、私たちは考えています。「社会をつくる人」をつくること。それこそが、ETIC. が担い続けるミッションです。

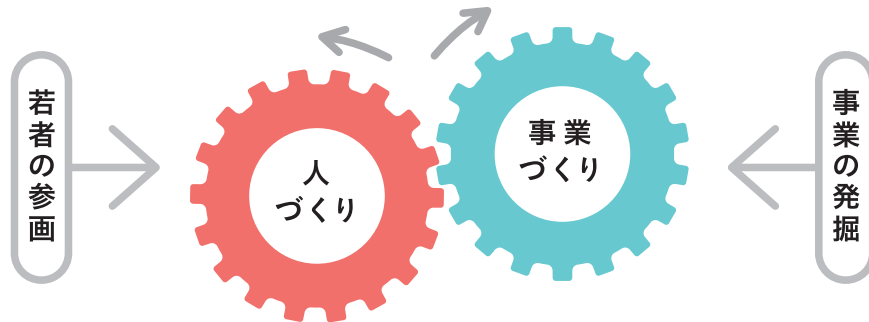
# APPROACH.

アプローチ

## 人をつくる、社会をつくる、日本をつくる。

### —「つくる」人が増え続ける循環へ—

課題の裏には機会がある。誰かが感じた不満や憤りの中には、未来の社会を描くヒントがある。誰も気づいていなかったところに、当たり前だと思っていたところに、未来の希望が眠っている。いまの社会に足りないもの。それは「つくる」人の存在。可能性に光をあて、新たな価値をつくりだしていく人たちが。社会をつくる現場でこそ、「つくる」人が育っていく。そして人材が参画することで、社会をつくる事業が育っていく。この両輪を回し続けることで、「つくる」人が増え続ける循環、自律的で創造的なコミュニティを育てていきます。



### 人づくり

#### 意欲ある若者たちを集め、彼らの意識を高め、 時代時代によって必要とされる変革・創造の現場と繋げていく。

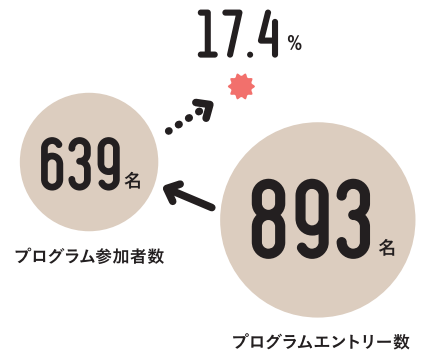
##### “時代の最先端の現場で育つ”

ETIC. は創業以来、意欲ある若者の可能性を磨き、育んできました。90年代はITベンチャーの現場、00年から社会課題を解決するソーシャルセクター、04年からは日本の地域、11年以降の東北。最先端の課題が集まる現場にコミットし、そこに若者を送り込み続けてきました。

##### “未来を感じる現場にこそ、意欲ある若者たちが集う”

社会課題が集まる場所、地域が直面している困難、災害復興の現場、そして新たなイノベーションに挑むスタートアップ。変革・創造の現場には、未来への希望と若者たちが関わる余白があります。それらの現場で若者たちがどうしたら最大のパフォーマンスを発揮し、成長を遂げることができるのか。数千人の若者たちの成長を支え、蓄積してきたノウハウがあります。

プログラムの参加人数の起業率  
\*過去のプログラム参加者の起業率



新しい領域を切り拓いて行く人材の育成(2014年度)

### 事業づくり

#### ボランティア・エコノミーを増幅させるためのビジョンと戦略を磨き、 社会をつくる事業の「チームづくり」を支えていく。

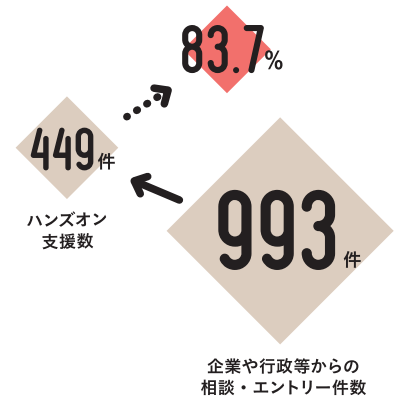
##### “最先端の社会課題が集合する”

ETIC. には、若手の社会起業家、ベンチャー経営者、全国各地の企業、そして、行政や自治体から多種多様な相談が日々寄せられています。それぞれが向き合う現場の中から生まれた問題意識やひらめきの中には、時代の最先端の社会課題や可能性が秘められています。

##### “ビジョンと戦略を磨き、仲間を増幅させていく”

社会をつくる事業は、多種多様な仲間の巻き込みが欠かせません。経営パートナー、ボードメンバー、混沌とした立ち上げ期をともにするスタッフ、プロボノ、連携パートナー。そうした仲間を増幅させていくためにも、問題意識やひらめきを研ぎ澄まし、共感の輪を広げていくビジョンと戦略を磨いていくことが必要です。私たちは、信頼と共感のコミュニティの中で、ビジョンと戦略を磨き、そして仲間を増幅させていく機会を生み出していきます。

支援先事業の継続率  
\*ハンズオン支援から3年後の継続率



革新的、イノベティブな事業の創造(2014年度)

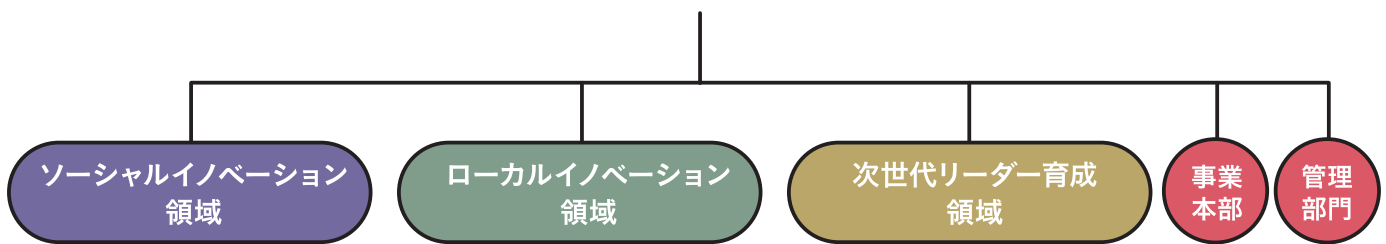
# ORGANIZATION.

組織(事業戦略)

## —「つくる」人が増え続ける循環へ—

2020年までに、新しい領域を切り拓く、意欲のある若者たち 20,000 人を、変革・創造の現場へと繋げていく。

この20年で社会の環境は大きく変わってきました。社会はますます多様化、複雑化し、市場の失敗の領域も、行政では取り組めない領域も増えています。これらの領域への若者たちの関心は明らかに高まっている一方で、その道筋は不透明で、一部の限られた人たちの挑戦に留まっています。「つくる」人が増え続ける循環を、日本社会に確立しきること。それこそが、私たちが約束したいことであり、その実現のために、強化すべき事業領域を3つに定め、2020年までに実現していきたいビジョンを掲げました。



### 社会的課題に次々とイノベーションが起きていくエコシステムづくりへ

「創業支援プログラム」から「イノベーション創出プラットフォーム」への進化を

2002年に日本で初めての社会起業向けビジネスプランコンテスト「STYLE」を開催してから13年。私たちは、「社会変革を仕事にする」というロールモデルを生み出すことに尽力してきましたが、この間、ソーシャルイノベーションに対する裾野は、担い手・支える仕組みとともに、飛躍的に拡大してきました。時代の変化を受け、ソーシャルイノベーション全体の質・量の発展に寄与するための新たな仕組みづくりに取り組んでいます。

#### 注目する兆し

- クラウドファンディング、休眠口座やソーシャルインパクトボンド等の新たな資金循環の流れ
- 大手企業やベンチャー企業においても、CSV(Creating Shared Value: 共通価値の創造)への関心の高まり
- NPO、ソーシャルベンチャーが転職先のひとつとして認知(人材会社による求人支援の動きも開始)

### 挑戦する人が集い、成長し続ける地域へ

地域資源を活用した仕事づくり(ローカル・スタートアップ)のロールモデルを広げる

私たちは、地域の挑戦の触媒となるコーディネート機能の開発を目的に、「チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト」を2004年に立ち上げ、この10年で全国60地域へパートナー団体が拡大してきました。この間、3.11を節目に、地域を取り巻く環境は大きく変化しています。地域にこそ、新しい働き方、暮らし方を見出す事業の種が詰まっている。その具体的なロールモデルが広がっていくことが、人の流れを変え、更に社会の流れを一步推し進めるはずです。

#### 注目する兆し

- 地域に対する若者たちの中での関心の高まり(UIターンフェア等への参加者層の変化)
- 地域は遅れているという意識ではなく、地域にこそ最先端があるという意識の芽生え
- 地域の中小企業のソーシャル化(社会的事業への経営革新)、ローカルベンチャー

### 日本の学びと挑戦のスタイルを変革する

新卒一括採用へのオルタナティブを生み出す

20代はアントレプレナーシップを一番育むことができる時期です。現代の社会は、彼らの可能性が最大化されていくような機会を作れているでしょうか?「つくる」人が求められる時代において、既存の就職・キャリア観が、必ずしも若者たちのポテンシャルを伸ばしていないとも言えます。スタートアップでのインターンシップの経験は、若者たちに「つくる」ことの喜びを感じさせ、彼らを「つくる」人として育てられました。ただ、それも時代の変化とともに、進化していく必要があります。この国に「つくる」人が育っていくための、新たな学びと挑戦のスタイルを提案します。

#### 注目する兆し

- 92%のミレニウム世代(2000年代に社会に出た世代)が、事業は利益ではなく、社会性によって評価されるべきであると考えている(Forbes記事より)
- 大学におけるクォーター制度・ギャップイヤー制度等の導入の動き
- 効率を重視した「新卒一括採用」廃止、随時採用への動き

ソーシャルイノベーション領域

- 1 ボランタリー・エコノミーを増幅させるための「ビジョン・戦略」ブラッシュアップ**  
 創業期や成長・拡大期の社会起業家や、ベンチャー企業・大手企業による社会的事業などの「ビジョン・戦略」づくりの支援  
 主な取り組み **社会起業塾イニシアティブ** **AMEX サービスアカデミー** **バーチャルボードミーティング**
- 2 社会をつくる事業の「チームづくり」支援**  
 招待制イベントでのプレゼンテーションの機会や、インターン・右腕人材のコーディネートによるチームづくりを支援  
 主な取り組み **SUSANOO –Social Startup Accelerator Program** **インターン・右腕人材の採用支援**
- 3 ソーシャルイノベーションを支えるエコシステムづくりへの貢献**  
 金融機関・財団、企業 CSR、行政・自治体など、自社のリソースを活用した独自のソーシャルイノベーション支援の仕組みをサポート  
 主な取り組み **西武ソーシャルビジネス成長応援融資「CHANGE」** **Google インパクトチャレンジ**



2014年度に新たにスタートした「SUSANOO」は、4ヶ月でアイデアを磨き、実験を行い、デモデイの場で仲間を募っていく。

ローカルイノベーション領域

- 1 ローカル発スタートアップの創出支援(ロールモデルづくり)**  
 3.11以降の東北で動き出している多数のローカル発スタートアップや、地域の中小企業のソーシャル化を、チームづくりから支援  
 主な取り組み **右腕プログラム(スタートアップへの右腕人材派遣)** **ふるさとプロデューサー養成プログラム**  
**中小企業経営革新プログラム(ソーシャル化へのインターン派遣)**
- 2 地域の新たな担い手の母集団づくり**  
 主に首都圏のビジネスパーソンを対象に、地域での仕事づくりの新たな担い手を発掘  
 主な取り組み **東北オープンアカデミー** **地域イノベーター留学** **日本全国!地域仕掛け人市**
- 3 全国コーディネート機関のボランタリー・ネットワーク「チャレンジ・コミュニティ・プロジェクト」の運営**  
 ローカルイノベーションの触媒となるコーディネート機関同士のナレッジ共有、スタッフ育成、協働事業の推進  
 主な取り組み **地域仕事づくりコーディネーター戦略会議** **Project Index(全国インターンポータルサイト)**



2015年度も9月12日(土)に、全国の仲間と実行員会を作り、地域イノベーションの現場へのUIJターンを促すイベントを開催。今年は50地域の出展、1,000名の来場を目指す。(中小企業庁委託事業「平成27年度予算 UIJ ターン人材拠点事業」)

次世代リーダー育成領域

- 1 産業界を巻き込んだコンソーシアム型リーダー育成プログラム**  
 「つくる」人を輩出するための新たなリーダー育成プログラムに着手  
 主な取り組み **2015年下期以降にリリース予定**
- 2 スタートアップ、NPO、中小企業新規事業等での長期実践型インターンシップ**  
 プログラム参加者3,000名を超えるETICの老舗プログラム。OB起業家も多数輩出  
 主な取り組み **Entrepreneur Internship Program** **地域未来創造型インターンシップ@横浜**
- 3 未来の「つくる」人の発掘**  
 行政や自治体、教育機関などとの連携を図りながら、10代20代の新たな担い手候補の発掘と育成を実施  
 主な取り組み **Tokyo Startup Gateway(東京都主催)** **GI College(GIサミット主催)**



ETICのインターンシッププログラムでは、過去の経験者(起業家やプロフェッショナルとして働く先輩等)たちがメンター役となり、月1回のグループメンタリングを実施

事業本部

3つの事業領域の価値を最大化させるために、新たに事業本部を立ち上げ、全社横断的な機能に戦略的に取り組んでいきます。

- 主な機能
- ソーシャル・NPO・ベンチャー求人サイト「DRIVE」
  - 右腕・起業志望人材データベース「RUNWAY」
  - コーディネーター研修
  - 広報・ブランディング 等

管理部門

使途特定寄附による基金設置、認定NPO法人仮認定の取得、また職業紹介免許取得などに伴い、より一層の管理体制の強化が必要となっています。2014年度は新たに2名の管理部門スタッフを採用し、信頼される組織を目指し、各種仕組み・制度を整えていきます。

- 2014年度の主な取り組み
- 認定NPO法人の仮認定取得
  - 職業紹介免許取得

# MESSAGE.

メッセージ

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

2004年度のNEC社会起業塾に参加したのが、ETIC.との関わりのスタート。創業期は2人きりだったので、同じスタートアップフェーズの起業家と同期でいられて、新しい大学に入っているような感覚でした。同じ位に創業したフロレンスの駒崎くんをはじめ、それぞれの持ち場で孤独に戦っている人たち同士が繋がることができました。ETIC.がつくりだしている繋がりに参加できたことは、よかったですと思っています。

## ETIC.との面白かった、

### 辛かったエピソードは？

ETIC.のコミュニティにゆるく繋がっている人たちが、暗黙知で共有している感覚みたいなものがあって、1つの文化圏をつくっている。それは面白いと思うし、関わっていて誇らしいというか、嬉しく思っています。

## ETIC.から何を学びましたか？

今でも、同じ頃に創業した仲間たちに、迷うと電話して相談に乗ってもらっている関係が続いている。同時に、創業したい次の世代の人たちが相談に来てくれると、大学の後輩が相談に来てくるような感覚で、応援したくなる。起業していて、大変なことをあげはじめたら多すぎて一言では語れないけど、そんな中で支え合っていく事、仲間や同志が何よりも大切だと学びました。

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

ETIC.なくして、フロレンスはなかったです。それくらい、大きな支援ときっかけをいただきました。

## ETIC.との面白かった、

### 辛かったエピソードは？

宮城代表から、度々愛のある圧迫面談をいただいたこと。そして10年前のその時と宮城さんの風貌が変化していないこと。

## ETIC.から何を学びましたか？

コミュニティと生態系の力。

## ETIC.は 1つの文化圏を つくっている



## NPOカタリバ

認定NPO法人カタリバ  
代表理事  
今村 久美 (いまむら・くみ)

## ETIC.なくして フロレンスは なかったです



認定NPO法人フロレンス  
代表理事  
駒崎 弘樹 (こまざき・ひろき)



ケアプロ株式会社  
代表取締役  
川添 高志 (かわぞえ・たかし)



NPO法人NEWVERY  
理事長  
山本 繁 (やまもと・しげる)

## ETIC.のイベントに 参加すると 「心が清らか」に なります

## 社会を変える きっかけは私塾である

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

19歳で「インターン」、25歳で「社会起業塾」、26歳からインターン採用、29歳で東北支援、の取り組みを一緒にできたこと。

## ETIC.との面白かった、 辛かったエピソードは？

宮城さんが意外に大食いで安心したこと。

## ETIC.から何を学びましたか？

いつの時代も社会を変えるきっかけは私塾であること。

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

ETIC.を通じた人との出会いに時に助けられ、時に勇気づけられました。特にNPO法人フロレンスの駒ちゃん、NPO法人KOMPOSITIONの寺ちゃん、(株)ジャパンエリアマネジメントの西本を始めとしたNEC社会起業塾で出会った仲間たちとは、互いに厳しい創業時を共に乗り越えてきたという感覚がありました。今でも続く交友は、社会起業家という文脈を越えて一生の財産になりそうです。

## ETIC.との面白かった、 辛かったエピソードは？

社会起業塾で実施しなければいけなかった「バーチャルボードミーティング(VBM)」が苦痛でした(笑)。当時は実力不足で上手く仕切ることができず、結果「3時間のVBM」が「1時間の説教」に変わったこともありましたが、それ以来「メンターとは個別に会う」というスタイルを守り、価値のあるフィードバックをいただけるようになりました。

## ETIC.から何を学びましたか？

ETIC.のイベントに参加すると「心が清らか」になります。ETIC.が生態系作りで成功している要因は様々あると思いますが、その卓越性を感じずにはいられません。それ以来、「存在感」というものを意識するようになりました。われわれがそこに存在することで、いったい社会にどのような影響を与えるのか？もちろん主は事業ですが、「存在」として社会に良い影響を与えられるようになりたいと想うようになりました。

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

全て。私の今の幸せは、ETIC.との出会いが無かったらたらされませんでした。1998年に、ETIC.を通じてインターネットベンチャーのネットエイジと出会い、ネットベンチャー創生期の中心にいられたことが大きな自信になりました。現在、起業して8年間ずっと増収増益でこられたのは、あのインターンで経営とは何かを学んだからだだと思います。

## ETIC.との面白かった、

### 辛かったエピソードは？

私が前職の資生堂に入社2年目だった時、ETIC.スタッフの内野くんが、私と学生の勉強会の立ち上げを促してくれました。なんとその勉強会は15年続いて現在も私の大切なコミュニティとなっています。卒業生は1,000人を超えました(笑)。そのコミュニティでプレゼンをボランティアで教え続けていたら、私が一番プレゼンスキルが上がって、プレゼンの本を3冊出版し、TEDにも出演することになって、びっくりしています。本当にありがとうございます！

## ETIC.から何を学びましたか？

コミュニティを作り、そこで発展する仕組みを作るということ。インターン生として自分がお世話になったので、その恩返しのつもりでインターン生を受け入れていたら、わが社の社員が一番成長しました。インターンって、社員を成長させるための仕組みだったんですね～。本当に感謝!!

## あのインターンで 経営とは何かを 学んだ



株式会社ワーク・ライフバランス  
代表取締役社長  
小室 淑恵 (こむろ・よしえ)

## 真剣に考え議論することができる 仲間とめぐり合えた

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

取り組むべき事業を具体的な計画に落とし込むことができた。事業のこと、社会のことを真剣に考え、議論することができる仲間とめぐり合えたこと。1年間など、長期に渡りインターン生が何人もETIC.を通じて関わってくれ、事業立ち上げ、変革、基礎づくりを共にすることができたこと。

## ETIC.との面白かった、

### 辛かったエピソードは？

ETIC.立ち上げ時に、前日にテレビの取材依頼が来て、急遽事業プレゼン大会を行ったこと。このプレゼンがトレジャー・ファクトリー設立の後押しになりました。

## ETIC.から何を学びましたか？

事業継続の重要性。事業の社会的意義の重要性。



株式会社トレジャー・ファクトリー  
代表取締役社長  
野坂 英吾 (のさか・えいご)



一般社団法人コペルニク・ジャパン  
共同創設者 兼 CEO  
中村 俊裕 (なかむら・としひろ)

## 革新的な取り組みは 目を見張るものがあり 多くを学ばせて いただいています

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

ETIC.はイノベーション・グラントを通じて一番最初にコペルニクを支援してくれた団体で、非常に感謝の思いが強いです。その後もSVMなどを通じて、加勢さんをはじめとするETIC.の方々にはその後もお世話になってきました。アイデア・インターナショナルさんや、ウィンローダーさんなどの協業も非常に意義があり、その後のコペルニクの活動の励みにもなりました。

## ETIC.との面白かった、

### 辛かったエピソードは？

面白かったエピソードかどうかはわかりませんが、アイデアの橋本社長と会うと、いつも「官僚っぽさがなくなったね」と言われます(笑)。昔はそんな雰囲気だったのでしょか。前職の国連職員から、経営者として脱皮していく大事な時期に、様々な出会いをいただきました。

## ETIC.から何を学びましたか？

ETIC.の民間の経営者とソーシャル・ベンチャーをつなげるという革新的な取り組みは目を見張るものがあり、色々な団体・人々をつなげるコペルニクとしては、そのアプローチからは学ぶことが大きいです。また、ETIC.自体も積極的な新規事業を開拓しており、団体運営についても多くを学ばせていただいています。

## ETIC.と関わって

### 良かったことは何でしょうか？

志を持つ同志や先輩と繋がれたことが良かったです。同じくらいの組織規模であればぶつかる壁は似ていて、情報交換することで、解決するためのヒントをもらうことができました。また、先輩起業家の皆様からは、更に上の視座で色んなアドバイスをいただくことができました。ETIC.さんには、そういう生態系があり、その中で成長させていただきました。

## ETIC.との面白かった、

### 辛かったエピソードは？

ETIC.の創業メンバーの方は、私の6、7歳上にあたるのですが、とても優しく、お仕事上でも個人的にも、とてもお世話になっております。打ち合わせのタイミングで飲みに行ったりカラオケに行ったりして、すごく楽しい時間を過ごさせてもらいました。

## ETIC.から何を学びましたか？

社会課題に対して本質的な解決をすることを、ETIC.さんの背中を見て学びました。本当に沢山の方を巻き込んで、社会を良くしようとする生態系を作られていて、私たちもそういう存在にならなければと思いました。他にも、その時その時に必要だと思う支援をしてくださっているの、とても沢山の学びと励ましをいただきました。



認定NPO法人  
かものはしプロジェクト  
認定NPO法人かものはしプロジェクト  
共同代表  
村田 早耶香 (むらた・さやか)

## 本質的な解決を することを 背中を見て学びました

# 「社会をつくる」 パートナーとして

## 加速する「挑戦の連鎖」と、それを支えるエコシステム（生態系）

「社会起業」「ソーシャルベンチャー」というメッセージを発信し、  
2002年に日本で初めての社会起業向けのビジネスプランコンテスト「STYLE」を開催。  
13年を経た今、ソーシャルイノベーション分野の裾野は飛躍的に拡大しています。  
ETIC. は、社会起業家のスタートアップを軸に、中小企業のソーシャルビジネス化や  
大企業のCSRからCSVへの動きなど、多様なスタイルの挑戦を支援。  
そしてそれを支え続けるエコシステム（生態系）の創出に取り組んでいます。

### 挑み始めた若き社会起業家たち

エネルギー問題・経済格差・少子高齢化・子育て支援など、多種多様な問題に直面し、「課題先進国」とされる日本。ETIC.では様々なプログラムを通じて、社会の課題解決のための事業を担う起業家の育成に取り組んできました。93年の設立以来、支援、輩出された社会起業家は450組を超えます。

代表的プログラムの一つ、現在、82名の起業家が卒業した「社会起業塾イニシアティブ」。ここでは、具体的にアクションを起こしている起業家を対象として、先輩起業家や大手企業担当者を含めたバーチャルボードミーティング（仮想理事会／仮想取締役会）を開催し、ビジョンを実現する事業戦略を何度もブラッシュアップ。実践とフィードバックを往復して事業を加速させていきます。彼らは市場では解決できない難しいスタイルに挑戦しているにも関わらず、事業継続率は92%を維持。あきらめずに意志を貫く起業家たちは、多くの協力者や経営資源を巻き込み、最初は絵空事とも思われた事業を可能にし、今ではその領域を拓く第一人者として、その活躍が注目されています。

### 挑戦の連鎖が生み出す「社会を変えるチーム」

さらに、ETIC.創設以来、出会ってきた7,000名以上の志ある若者や経営者たちの繋がりを基盤に、想いを共有できる若手人材やインターン生との出会いを創出し、事業の成否の鍵を握る「チームづくり」をサポートしています。インターン経験者から新たな社員が誕生するケースは数多く、例えば、NPO法人フローレンス（NEC社会起業塾2003年参加）で経営を学んだインターン経験者が、NPO法人カタリバ（同2004年参加）の経営陣として参画するなどの循環が生まれています。そこには、単に先輩が後輩を教え、育てるという関係性だけではなく、相互に真剣勝負でぶつかり、ともに挑むなかで刺激し合いお互いを高め合う関係性があります。

そして、これまでごく一部の「変わり者」といわれるような人たちの世界から、多くの志ある優秀な若者たちが、この社会を変えるチームに参画を始めています。ETIC.ではこうした機運の高まりを受け2013年に、ソーシャル・NPO・ベンチャーに特化した求人サイト「DRIVE」をオープン。現在200件超の案件が掲載され、セクターを越えて新しい働き方を選ぶ若者から支持を受けています。そしてこれまで大手企業や待遇のよい外資などに就職していたはずの若者たちが、次々とこの領域を選び、社会を変える挑戦をともに挑んでいます。





## 本当に大切にしたいことは何か ～「雪だるまの芯」を固める～

私たちが社会を変革したいと行動する人のサポートをする際に、重視しているのは、本当に大切にしたいことは何か、自らに問い直す機会を提供し、「雪だるまの芯」を固めることです。この場合の芯とは本人の「志」であり「想い」のことです。あらん限りの力でぎゅっと握り、壁に打ちつけて、余分な雪を削ぎ落して固めた芯であればあるほど、雪だるまは大きくなります。私たちは「志」や「想い」にフォーカスし、本人がその本質を見出すまで、何度も問い直し、見極めるプロセスに伴走していきます。一時の気持ちに流されるのではなく、自分の心に向き合い、その分野で3年から5年、走り続ぬく人間は、社会が放っておきません。もちろん、途中、様々な課題に直面します。ETIC.では、そんな時に、経験をシェアしたり、志を問い直す場をいくつも作っています。道なき道をきりひらく同志と、刺激し合い、共に仕事し、連携し、切磋琢磨する。そんな場から、新たなエネルギーを得て多くの社会起業家が飛び立っていきます。

### 多様なプレイヤーたちの挑戦

近年では、多様なプレイヤーたちが、社会的挑戦を始めています。音楽プロデューサーの小林武史氏が設立したap bankは、被災地でのイベントや融資、ETIC.の右腕プログラムの支援など積極的な活動を展開しています。また、岡田武史氏も四国地域リーグ「FC今治」のオーナーへ就任。今治から世界に通用する日本のサッカーの「型」を作るとともに、サッカーを通じて世界から人が集まり、交流するコミュニティづくりを構想し、人材面等でETIC.もサポートするなど、「社会を変える」あらたな協働が進んでいます。

そして、私たちはそうした彼らの挑戦に魅かれ、そこに参画していく姿を目の当たりにし、若者たちのキャリア観が大きく変わろうとしている流れを実感しています。

どのようなフィールドでも、どのようなセクターでも、自分自身を知ること。自らのやりたいこと、大切にしたいこと、価値観に忠実に生きること。そうすることで、人の可能性は最大化する。私たちは、多くの社会起業家とともに走りながら、そう実感しています。そしてその挑戦が社会の未来をつくる原動力になることを確信しています。

# STORY 1.

ストーリー 1

# ETIC.HISTORY. 1993-2015



早稲田大学にて、  
起業家を目指す学生が集まり、  
勉強会としてスタート

起業を志す関東近県の  
大学生を中心に、  
「学生アントレプレナー  
連絡会議」が発足。

孫正義氏(ソフトバンク株式会社)、  
渡辺美樹氏(ワタミフードサービス  
株式会社)、増田宗昭氏(カルチュ  
ア・コンビニエンス・クラブ株式会  
社)などの起業家を呼び、通算200回  
を超える起業支援セミナー・勉強会  
を主催開催。

「就職ちょっと待ったシンポジウム」  
を開催、約300人の学生を集める。

全国縦断  
「若者会社をつくろう」  
セミナーを開催  
(経済産業省委託事業、  
～1999年2月)

関西事務局が発足  
(～2002年)

事務局機能の拡大にともない、  
事務局の名称を  
「ETIC.(エティック)」に統一。  
学生団体から  
NPO事業体へ移行。

日本初のベンチャー企業での  
長期実践型インターンシップ  
プログラム「アントレプレナー・  
インターンシッププログラム」を  
スタート

「ベンチャー企業におけるインター  
ンシップの普及に向けて」調査研究実  
施(中小企業庁委託事業)

食・農業・環境問題をテーマと  
した人材育成プロジェクト  
「CAFE オーガニック・インター  
ンシップ・プログラム」スタート

経済企画庁  
(現内閣府)より  
NPO法人(特定非営利  
活動法人)認証

ITベンチャーの急成長を支える  
存在としてインターンシップの  
規模も拡大(年間300人のマッ  
チング)

インターンシップにおける大学  
との協働や講演活動を開始  
(早稲田大学や中央大学など)

ETICのソーシャルイノベーションの  
源流となった、Cafe～  
Creative Action for the Earth  
開催

1993 1994 1995 1997 1998 1999 2000

## ソーシャルセクター等 関連領域ヒストリー

## 日本・世界の動き

阪神・淡路大震災

Windows95発売、  
日本IT化促進、  
ネットバブルに

英国ブレア政権誕生。  
「第三の道」志向により、  
非営利セクターを重視

日本、特定非営利  
活動促進法  
(NPO法)成立

Google創業

シュワブ財団  
"Social Entrepreneur of  
the Year (SEOY)"  
スタート

ビットバレーとして  
渋谷周辺の  
ITベンチャーが  
注目を浴びる



## STYLE開催

日本初のソーシャルアントレプレナー育成プログラム「NEC学生NPO起業塾」開始（現在はNEC社会起業塾として開催）

「アントレプレナー・インターンシップ・プログラム(EIP)」の参加者が1,000人を突破

若手ビジネスプロデューサー育成を目指すインターンシップ「事業開発力トレーニングプログラム」を実施（～2002年）



事務所を  
渋谷区神南に移転

社会的課題に挑戦する起業家を支援するため「ETIC.ソーシャルベンチャーセンター」を設立

地方学生を対象とした合宿型プログラム「東京ベンチャー留学」第1回開催



若者の挑戦の連鎖を全国に広げる「チャレンジ・コミュニティ創成プロジェクト」を経済産業省委託事業として開始

『ETIC.インターンシップ・プログラム』参加学生が  
**2,000名**、  
起業家・経営者となった卒業生が累計  
**120名突破**

チャレンジ・プロデューサー育成講座『CPアカデミー』開講

ベンチャー企業が連携して社会起業家を支援する『イノベーション・グラント』開始

東海地域の課題解決に挑む起業家を支援する『東海若手起業塾』開始（協賛：ブラザー工業）

全国から集まった長期実践型インターンシップのプロジェクトを表彰する、『第1回 地域若者チャレンジ大賞』開催

将来、社会的な事業を行いたい人を対象とした『第1回 個別プロジェクト・経営相談会』を開催

2001      2002      2003      2004      2005      2006      2007      2008

アキュメンファンド設立。  
資金支援がグラントから投資へ

アメリカ同時多発テロ事件

Facebook創業

スマトラ沖大地震

グラミン銀行がノーベル賞を受賞

アメリカ、ハリケーン・カトリーナによる被害。復興支援の新しい動き（コミュニティ重視の支援スキームのスタート）

iPhone発売

日本、公益法人制度改革

ふるさと納税制度制定

リーマン・ショック

Kickstarter  
クラウドファンディング  
サービススタート

社会課題解決の現場にリーダー格として参画する、社会人・休学者向けインターンシップ「次世代社会イノベータープログラム」スタート

「ゴールドマン・サックス教育社会起業家・NPO支援プログラム」スタート

社会を変えていく、新しい価値の創造にチャレンジする起業家やリーダーたち約200名が参加「ETIC. Entrepreneur Gathering 2010」開催



人事院公務員研修所との協働で行政官僚研修をスタート。これまで**2,000**人以上の若手官僚に研修を実施

震災復興リーダー支援プロジェクト開始

東北の地域課題解決型事業に取り組むリーダーのもとに人材を長期派遣する「右腕派遣プログラム」スタート。

NEC社会起業塾に、横浜市、花王がオフィシャルパートナーとして加わり、社会起業塾イニシアティブをスタート

UIターン・起業、地域活性化を仕事にするマッチングフェア「地域の若者を応援する仕掛け人市2010」開催

内閣府地域雇用創造事業「ソーシャルベンチャー・スタートアップマーケット」にて95人の社会起業家を支援

地域仕事づくりコーディネーター戦略会議

32地域  
116団体へ  
214人を派遣  
(2015年6月時点)

スタートアップの集積地、東北へ  
**新** みちのく仕事

東北のリーダー・右腕を支える企業コンソーシアム「みちのく復興事業パートナーズ」発足。現在7社が参画(2015年6月時点)

東北での創業支援「みちのく起業」により50社のスタートアップを応援(内閣府委託事業)

内閣府地域社会雇用創造事業「ソーシャルビジネスインターンシップ」実施。全国30大学と連携し、1,478人の学生が参加

2009 2010 2011 2012 2013

バラク・オバマ、アメリカ大統領就任、ホワイトハウスに「社会イノベーション・市民参加局」設置

民主党連立政権誕生(~2012年)

特定非営利活動促進法(NPO法)改正

東日本大震災

震災を機に日本における個人の寄付額が一気に拡大(2012年6,931億円)

## 20周年イベント開催

職業紹介免許取得

仮認定NPO取得



人材紹介  
事業の開始

「つくる」人が集う  
インキュベーションオフィスの  
立ち上げ(予定)

社会や地域の課題解決に  
チャレンジする組織を  
「資金面」と「経営面」で応援!  
西武ソーシャルビジネス成長  
応援融資「CHANGE」をスタート。  
これまでに28社への融資を実施  
(2015年6月時点)



「市場の失敗」に挑む  
若者のための新たな  
アクセラレータープログラム  
「SUSANOO」1st Batch  
スタート

社会起業家のステージアップ  
を目的とした研修プログラム  
をテスト試行(内閣府委託)

東京発・400文字から  
はじまる、世界を変える  
スタートアップコンテスト  
「Tokyo Startup Gateway  
(東京都委託)」開始  
(初年度エントリー450プラン)



TOKYO  
STARTUP  
GATEWAY

地域のプロデュースを  
仕掛ける7団体とともに  
「日本全国! 地域仕掛け人市」  
実行委員会を発足

全国13箇所で  
コーディネーター養成  
講座を開催

地域から優れた中小企業の  
経営革新を選抜し、加速支  
援のためのインターン派遣を  
実施する「中小企業経営革  
新プログラム」スタート

東北のハブ機能強化に向け  
て、米国ニューオーリンズへの  
視察、モデル団体への助成事  
業を開始。現在7団体への資  
金助成・ノウハウ支援を実施  
中(2015年6月時点)

産業界を巻き込んだ  
コンソーシアム型  
次世代リーダー  
育成プログラムを  
新たに立ち上げ予定

高校生向けの  
次世代リーダー  
養成合宿

ステージアップ・  
成長支援のための  
プログラムを本格稼働

西武ソーシャルビジネス  
成長応援融資「CHANGE」の  
融資枠を500万円から  
最大5,000万円に引き上げ

「日本全国!  
地域仕掛け人市」を  
集客目標1,000人へと  
規模拡大を目指す

地域求人サイトの立ち上げ

2014

2015-

日経ソーシャル  
イニシアチブ大賞 開始

### イノベーションの現場でこそ、人は育つ

昨年、関連2法案が成立し、国が総力をあげて取り組んでいる「地方創生」。政府は、地方創生は『日本の創生』であるとして、地方への積極的な財政的支援を展開しています。

先鋭的な議論として、持続可能な地域発展をめざし、中核都市を軸に、生産性の低い企業の退出と集約を進め、再編を図ろうという意見がある一方で、私たちは、地域を支える「ひと」に着目し「地域イノベーションの現場で人が育つ」モデルを広げてきました。地域に真摯に向き合い、担い手となる意志を持って行動を起こすような起業家精神を有する存在が起爆剤になると確信していたからです。

### すべての着火点の一つひとつの現場から

2004年から始まった「地域×人材育成」の取り組みは、経済産業省との協働により5地域の団体と連携してスタート

しました。これは、「地域の救済」という観点の取り組みではありません。それまで首都圏を中心に展開し、人材育成の多様性を広げたいと考えていた私たちにとって、人が育つ場所として地域を舞台にしない手はない、地域にこそ魅力的な人と機会が存在していると感じていたからです。

例えば、NPO法人 G-net(岐阜県岐阜市)の秋元祥治氏は、次代の若者の育成と商店街の活性化をめざし、フリーペーパーの発行やイベント運営などに奮闘していました。ETIC.としてはこれまでのインターンシップなどのノウハウをベースに彼らのような地域でハブ的な役割を果たす存在が、経営者の本気を引き出し、業務改善や新規事業開発、海外販路開拓など、未来をつくるプロジェクトを設計し、そこに意欲ある若者をコーディネートするモデルを提案。地域の活性化と人材育成の好循環を生み出すべく、徹底的に現場から着想し、共に地域を巡りながら、自分の地域に合った独自のやり方を見つけて事業として自立するまでを支援してきました。

# 「地域発イノベーション」が日本を変える

## 挑戦が生まれ続ける地域をつくる

2004年から経済産業省と連携して5地域から始まった

「地域変革×人材育成」の取り組みは、この10年で急速に拡大。

「地域にこそ新たなイノベーションの可能性がある」と注目を集め、全国60地域、約1,800社の地域企業・100大学・7千人の学生をつなぎ、イノベーションを起こす起業家精神の渦が全国に広がっています。

# STORY 2.

ストーリー 2

そんな中で、3.11は訪れました。被災地を助けたいという想いで現地入りした私たちが目にしたのは、未曾有の大災害を乗り越える地元の人々、暗闇の中で希望を生み出そうと奮闘する経営者の姿でした。彼らの生き方に胸を打たれ、この地域へ魅せられて移住する若者は後を絶ちません。被災地復興に向けた事業・プロジェクトに取り組むリーダーのもとに若手人材が参画する「右腕プログラム」にも、これまで200人超の若者が参画し、63%の若者が東北地域に残って活躍を続け、そこから15名の起業家が生まれています。

## 地域こそ、未来を生み出すイノベーションの集積地

こういった背景には、地域の中小企業が、若者の力と共に、先鋭的な新しい仕事や実験的な取り組みを始める動きが加速していることもあげられます。気仙沼でガソリンスタンドの経営や船の燃料を扱う企業が、地元木材を活用した木質バイオマスエネルギー事業を立ち上げ、新会社を設立。里山、里海を守りながらスマートシティを目指していく取組みに一級建築士や林業経営を専攻する大学院

生、外資系企業経験者などが続々と参画。その他にも、農業漁業の六次産業化、高齢化に向けた地域医療・福祉の取り組み、そして、人々の自治力や誇りを取り戻す仕組みづくりなど、地域には、世界のお手本となる新しいモデル作り、新しい社会の方向性のヒントがあります。

解決困難な課題でも、それを自らの使命とさだめて立ち上がるひとの存在が求心力となり、知恵や若者や資源が集まり、大きく景色が変わっていく。あらたな挑戦の渦が地域を巻き込み、関わる大人たちとともに挑む当事者に変えていく、まさに挑戦の連鎖が生まれ始めています。そんな光景を、私達はこの10年以上にわたり、見続けてきました。だからこそ、私たちは、「ひと」にフォーカスをして、これからも地域から生まれる変革を支援していきたいと考えています。



2014年度は120団体と協働し、各地のInnovative Communityを育んできました。

連携コーディネート団体数

62 団体

連携大学

21 校

連携中央省庁・自治体

7 自治体

連携企業・財団等

30 団体

北海道

- 【積丹】 ほっかいどう海の学校
- 【札幌】 neeth株式会社
- 【札幌】 NPO法人北海道エンブリッジ
- 【小樽】 かもめ事務所 / MARUTARU

北信越

- 【新潟県・新潟】 NPO法人ヒーローズファーム
- 【新潟県・長岡】 公益社団法人中越防災安全推進機構
- 【石川県・七尾】 株式会社御誠川
- 【石川県・金沢】 KAKUMA NO HIROBA
- 【長野県・塩尻】 塩尻市役所
- 【長野県・上田】 一般社団法人ループサンパチ
- 【長野県・塩尻】 塩尻商工会議所

中国

- 【岡山県・岡山】 NPO法人エリアイノベーション
- 【岡山県・西粟倉】 株式会社西粟倉・森の学校
- 【神奈川県・三浦】 NPO法人みうら映画舎
- 【島根県・松江】 株式会社シーズ総合政策研究所
- 【島根県・海士】 株式会社巡の環
- 【島根県・江津】 NPO法人てごねっと岩見
- 【島根県・雲南】 雲南市役所
- 【島根県・智頭】 智頭町役場
- 【鳥取県・鳥取】 NPO法人学生人材バンク
- 【山口県・周防大島】 株式会社ジブソノオト

東北

- 【青森県・青森】 NPO法人プラットフォームあおもり
- 【秋田県・八郎潟】 NPO法人はちろうプロジェクト
- 【秋田県・大館】 大館商工会議所
- 【秋田県・横手】 NPO法人秋田県南NPOセンター
- 【岩手県・田野畑】 NPO法人北いわて未来ラボ
- 【岩手県・北上】 いわてNPO-NETサポート
- 【岩手県・釜石】 一般社団法人三陸ひとつなぎ自然学校
- 【岩手県・大船渡】 NPO法人wiz
- 【岩手県・奥州】 株式会社キミドリ
- 【岩手県・大船渡】 地域交流センター大船渡ランチ
- 【福島県・新地】 NPO法人みらいと
- 【福島県・会津若松】 株式会社明天
- 【福島県・福島】 一般社団法人Bridge for Fukushima
- 【福島県・喜多方】 NPO法人まちづくり喜多方
- 【宮城県・南三陸】 南三陸入谷公民館
- 【宮城県・牡鹿半島】 一般社団法人つむぎや
- 【宮城県・女川】 女川町復興連絡協議会
- 【宮城県・女川】 NPO法人アスヘノキボウ
- 【宮城県・仙台】 一般社団法人ワカツク
- 【宮城県・仙台】 株式会社知識創発研究所
- 【宮城県・名取】 株式会社ファミリア
- 【宮城県・気仙沼】 一般社団法人まるオフィス
- 【宮城県・南三陸】 南三陸町観光協会
- 【宮城県・石巻】 一般社団法人はまのね
- 【山形県・鶴岡】 YAMAGATA DESIGN

中部

- 【静岡県・熱海】 NPO法人atamista
- 【静岡県・富士】 NPO法人東海道・吉原宿
- 【静岡県・三ヶ日】 三ヶ日町観光協会
- 【愛知県・蒲郡】 NPO法人楽笑
- 【愛知県・名古屋】 NPO法人アスクネット
- 【愛知県・岡崎】 NPO法人コラボキャンパス三河
- 【岐阜県・岐阜】 NPO法人G-net
- 【三重県・尾鷲】 尾鷲商工会議所
- 【三重県・尾鷲】 株式会社熊野古道おわせ

四国

- 【愛媛県・松山】 NPO法人Eyes
- 【愛媛県・大三島】 キズナプロダクト
- 【高知県・嶺北】 ぼうむ合同会社
- 【高知県・四万十】 一般社団法人いなかパイプ
- 【高知県・高知】 株式会社南の風社
- 【高知県・土佐山】 NPO法人土佐山アカデミー
- 【徳島県・上勝】 株式会社いろどり

九州

- 【福岡県・飯塚】 株式会社ハウインターナショナル
- 【長崎県・小値賀】 おぢかアイランドツーリズム
- 【熊本県・熊本】 一般社団法人フミダス
- 【鹿児島県・鹿児島】 株式会社マチトビラ
- 【鹿児島県・鹿児島】 鹿児島天文館総合研究所Ten-lab
- 【鹿児島県・南さつま】 NPO法人エコ・リンクアソシエーション
- 【宮崎県・宮崎】 NPO法人宮崎文化本舗
- 【沖縄県・浦添】 一般社団法人エクスブリッジ
- 【沖縄県・浦添】 株式会社ルーツ
- 【沖縄県・名護】 名護市役所地域コーディネーター

関西

- 【大阪府・大阪】 NPO法人JAE
- 【京都府・京丹後】 株式会社アマタ持続可能経済研究所
- 【奈良県・奈良】 NPO法人ならゆうし
- 【兵庫県・尼崎】 尼崎市役所

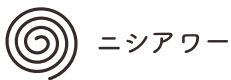
関東

- 【東京都・渋谷】 NPO法人ETIC.
- 【茨城県・東北】 えぼっく
- 【神奈川県・横浜】 NPO法人ETIC.横浜ランチ
- 【神奈川県・横須賀】 横須賀市役所
- 【神奈川県・三浦】 NPO法人みうら映画舎
- 【群馬県・みなかみ】 NPO法人奥利根水源地域ネットワーク
- 【埼玉県・ときがわ】 株式会社温泉道場
- 【千葉県・九十九里】 NPO法人TINA
- 【千葉県・鋸南】 株式会社R.project
- 【千葉県・銚子】 銚子市役所
- 【栃木県・宇都宮】 NPO法人とちぎユースサポーターズネットワーク





## ETIC.と関わって 人生が 変わってしまった



株式会社西栗倉・森の学校 代表取締役  
牧 大介 (まき・だいすけ)

### ETIC.と関わって

良かったことは何でしょうか？

ETIC.の周りにいる何かに挑戦しようっていう元気な若者にたくさん出会って、衝撃を受けました。自分がフィールドにしていた林業とか、農山漁村っていう分野は、圧倒的にチャレンジが足りないということが分かってしまった。自分の周りに挑戦者を増やそう、起業家を増やそう、そうすれば日本の田舎はまだ面白くなるって思いました。ETIC.と関わって良かったとかっていうより、ETIC.と関わってしまったことで人生が変わってしまったと思います。今やっている岡山県西栗倉村の西栗倉・森の学校っていう会社は、会社の中とその周辺に、10人以上の起業家的な人材がいて互いに連携しながら過疎が進む山村を盛り上げて行こうとしている会社なんです。が、数年前に潰れそうになってもうダメかな…っていう状況だったんですが、何人も資金援助してくれている人がいて、ぎりぎり倒産せずに持ちこたえました。その時に資金援助してくれた人のほとんどが、ETIC.と関わりがある人達でした。ETIC.と出会ってなかったら、こんなしんどくて楽しい事業もやってないんですが、ETIC.と関わりがあったおかげで、事業を潰さずに済みました。

### ETIC.との面白かった、 辛かったエピソードは？

STYLE2003の2次審査の時の石川治江さんが、すごい怖かったです。「ん？、何やたいわけ？」みたいな感じ。次にファイナルのプレゼンに進んだら、審査員に自分が動いている会社の社長がいたのもちょっと焦りましたね。会社っていう枠組みを無視して、飛び越えて、自分でやりたい事業をやるぞ！っていうプレゼンですからね。昨年から起業塾のシニアメンターというお仕事をさせていただいて、これはいつも辛くて楽しい。百戦錬磨の石川治江師匠と、川北秀人師匠と一緒にですから、常に自分の無力さを実感します。このお二人と並んで座るのは、正直キツイな…って思うところもありますが、両師匠からたくさんのことを学び、そして起業家の卵たちが劇的に成長していく姿を目の当たりにできるっていうのは、自分にとってすごくプラスになっています。

### ETIC.から何を学びましたか？

自分が自分らしく精一杯生きて行くには、どうしたらいいのかってことを、ETIC.っていう人の生態系の中から学んだと思います。たくさんの人たちが、何かに本気になっていく、そして生き生きとしていくっていう場面をたくさん見ることができた。素敵な先輩たちにたくさん出会えた。こういう人たちが増えて行くことで、未来は創っていくっていう実感があります。



## 「これが良かった」とは 言えないほど 良かったことばかり



NPO法人G-net 代表理事  
秋元 祥治 (あきもと・しょうじ)

### ETIC.と関わって

良かったことは何でしょうか？

色々と考えてみたんですが「これが良かった」とは言えないほど、良かったことばかり。ETIC.との出会いなくして、今の秋元祥治もG-netも、あるいはOKa-Bizでの取り組みもありえないと思うんです。在学中の21歳の時に事業を始め、24歳の時にチャレンジ・コミュニティ・プロジェクト(チャレコミ)の第1期・最年少で採択いただいたのがETIC.との本格的な出会いでした。ちょうど深くご縁を頂き10年、改めて振り返ってみても、やはり「これが良かった」って切り分けては言い表せないほど、とても大きな影響を頂きました。ETIC.は、僕にとって師匠であり、兄貴分であり、そして友でもあり。つながりであり、励ましの場であり、目線をあげる場であり、問われる場であり、自身の鏡であり。

### ETIC.との面白かった、 辛かったエピソードは？

学び深く得難く、そして面白かったといえるのは2008年4月に宮城さん・山内さんと3人で3週間ちょっとアメリカを旅させていただいたこと。米国務省のinternational visitor leadership programで、5都市45組の社会起業家や支援機関などとの意見交換のチャンスをいただきました。この機会の得難さとともに、お二方と文字通り「寝食を共にする」中でぐっぐと胸襟を開いた時間を過ごせたことが印象深いです。辛かったと今振り返って感じることは特にないです。チャレコミギャザリングで川北さんや治江さんにビシビシ指摘を頂いたことや、プログラム予定時間はお構いなく「関所通過が必須」と深夜(いや早朝まで)まで続いたプランのブラッシュアップなど、その時その時は厳しくキツイことはたくさんありましたが振り返れば素晴らしい機会でした。そして、チャレコミ1、2年目は担当を頂いた山内さんとは、毎週1度は岐阜から東京でお会いして、グッと議論を詰めていく…そんな時期は確かにキツイと感じることもありましたが、やはりとても有意義でした。

### ETIC.から何を学びましたか？

事業の組み立て方や描くビジョンの高さ大きさ、仕事への思想・姿勢、学びや刺激を与えてくださる師匠・兄貴分との出会いの機会、全国各地で悪戦苦闘しながら同じような思いで事業に取り組む仲間たちとのつながり、自身に向き合う問いや機会。そして、全てのできごとは結果ではなく過程であるということ。本当に多くの学びを頂いていますが、ミッションへ真摯で徹底した姿、はなによりいつも感じさせていただいています。



株式会社ファミリア 代表取締役  
一般社団法人東北復興プロジェクト 理事  
島田 昌幸 (しまだ・まさゆき)

### ETIC.と関わって

良かったことは何でしょうか？

人に対する、無償の愛を感じることができたこと。

### ETIC.との面白かった、 辛かったエピソードは？

辛かったエピソードは、朝6時までの日本の未来を語る議論！取り留めがない！それがETIC.って感じです。辛いというよりは当時、みんな若かった！そしてウザいくらい熱かった！

### ETIC.から何を学びましたか？

地域づくりは時間がかかるということ、実践を通じて何が現場に必要なかを深く学びました。現場よりだけでも継続性がなければ続かない。そういった中で、自分のヤル気(やりたいこと)と社会性と事業性の三方がバランスよく交わって地域が緩かに進んでいくことを様々な実践の場や先輩を通じて教わりました。あとは、圧倒的な飲みニケーション！でも最近、私も含めて歳を感じて控え目でしょうか。

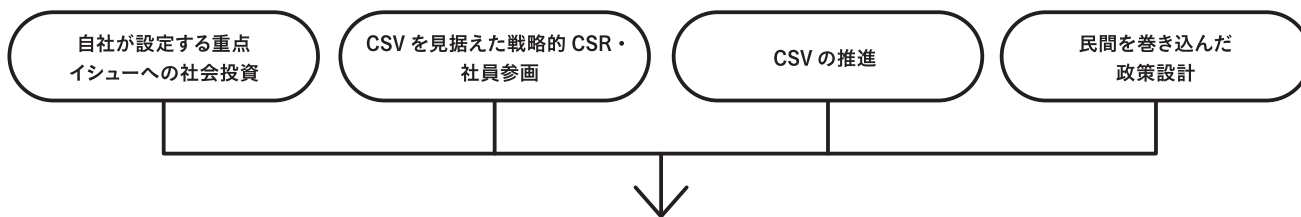
## 人に対する 無償の愛を 感じる事ができた

## —「つくる」人が増え続ける循環へ—

ともに、次の社会をつくる人を支える仕組みづくりを

ETIC.には年間900件を超える新規事業・創業の相談が集まります。これまでにスタートアップ期を支えてきた500件を超える事業のネットワークも活かしながら、「社会をつくる」人が増え続けるための仕組みを構築していくために、パートナー企業・団体の皆さまとの連携を深めています。

### 〈企業・行政・自治体等のニーズ〉



#### ご提案段階

●ディスカッション ●リサーチ ●戦略検討会議(ステークホルダー MTG) ●企画提案等

#### 実行段階

●事務局運営 ●コンサルティング ●チームづくり ●事業評価等

### ETIC. の提案メニュー

1.

#### ETIC. のプログラムへの参画

CSVを見据えた戦略的CSR、自社が設定する重点イシューへの社会投資を提案します。

##### 参画の切り口

1. 次世代リーダー育成の支援
2. 社会的事業の支援
3. 特定テーマ領域の支援

##### 取り組み例

- ◎社会起業塾イニシアティブ  
日本を代表する若手社会起業家を多数輩出(NEC、花王、エヌエヌ生命保険、電通)
- ◎右腕プログラム(東北支援)  
東北での「健康×産業づくり」に取り組む団体の支援(ジョンソン・エンド・ジョンソン)
- ◎私塾型次世代リーダー育成プログラム  
高校生、大学生対象。実践の新しい事業を創造する現場での仕事の場を通じた育成プログラム。

2.

#### 独自の仕組みをつくる

自社のリソースを活用した独自のソーシャルイノベーション支援の仕組みをサポートします。

##### ETIC. の関わり方

1. 事務局運営委託
2. コンサルティング
3. 事業評価

##### 取り組み例

- ◎西武ソーシャルビジネス成長応援融資CHANGE  
社会起業家への低金利融資と経営支援(西武信用金庫、日本財団)
- ◎Google インパクトチャレンジ  
受賞10団体に対するコンサルティングおよび実施支援を提供(Google)
- ◎ゴールドマン・サックス・ギブズ・コミュニティ支援プログラム事業評価  
貧困の連鎖の問題解決を目的としたいくつかのプログラムの事業評価の実施

3.

#### 社会的なプロジェクトを展開する

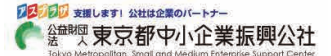
民間や社会を広く巻き込んだ行政プロジェクト、大企業、ベンチャー企業のCSV展開をサポートします。

##### ETIC. の関わり方

1. ビジョン・戦略策定支援
2. チームづくり(事務局委託)
3. 政策提言

##### 取り組み例

- ◎みちのく復興事業パートナーズ  
企業のリソースを活かして、東北の自律的な復興を支える目的に設立された大手企業7社によるコンソーシアムの立ち上げ運営(いすゞ自動車、花王、ジェーシービー、損害保険ジャパン日本興亜、電通、東芝、ベネッセホールディングス)
- ◎若者就労支援プログラム「BizAcademy」  
セールスフォース・ドットコム ファンデーションと連携し、正規雇用されていない若者の就労支援プログラムの立ち上げを支援



インターンシップ受入パートナー企業・団体

AppBank 株式会社  
 Crevo 株式会社  
 eevo Japan 株式会社  
 freee 株式会社  
 NPO 法人 atamista  
 NPO 法人クロスフィールズ  
 NPO 法人マドレボニータ  
 アクトインディ株式会社  
 アグリホールディングス株式会社  
 コギコギ株式会社  
 ココネット株式会社  
 ゴロ - 株式会社  
 サムライト株式会社  
 シェルフィー株式会社  
 ストリートアカデミー株式会社  
 スマートアイデア株式会社  
 スリール株式会社  
 ソフトバンクロボティクス株式会社  
 ピクスタ株式会社  
 ミュージックセキュリティーズ株式会社  
 株式会社 HASUNA  
 株式会社 The Etoile

株式会社ウインローダー  
 株式会社クライダーアソシエイツ  
 株式会社コンカー (Concur Japan, Ltd.)  
 株式会社サイトビジット  
 株式会社そとあそび  
 株式会社ダイナプティコ  
 株式会社デジサーチアンドアドバタイジング  
 株式会社フランチャイズアドバンテージ  
 株式会社マーケット  
 株式会社メディウィル (Mediwill Co.,Ltd.)  
 株式会社リリムジカ  
 株式会社リンクエッジ  
 株式会社魚巻  
 公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン  
 三宅(上海) 商務情報諮詢有限公司  
 三和システム株式会社  
 四次元ポケット株式会社  
 日本ブラインドサッカー協会  
 認定 NPO 法人 Teach For Japan  
 認定 NPO 法人カタリバ  
 認定 NPO 法人かものはしプロジェクト  
 認定 NPO 法人フローレンス

パートナー&スポンサー

経済産業省  
 内閣府  
 渋谷ヒカリエ Creative Space8  
 NPO 法人ソーシャルベンチャーパートナーズ東京  
 パブリックリソース財団  
 中小企業庁  
 神奈川大学  
 一般社団法人 MAKOTO  
 一般社団法人こはく  
 Ben&Jerrys Homemade Inc.  
 東京ボランティア・市民活動センター  
 横浜国立大学  
 共立株式会社  
 日本電気株式会社  
 立教大学  
 本城慎之介

(敬称略)

世界とつながり、世界の中での日本の役割を果たしていきます。

## Japan Society

— 米国ニューヨークに本部を持つ全米最大の日米交流団体 —

米国の災害復興やコミュニティ開発のリーダーとの人材交流を通じて、東北におけるハブ機能の強化支援を協働で実施。

## AVPN Asia Venture Philanthropy Network

— インパクト投資を進める機関のアジアネットワーク —

ETIC. の実績とネットワークを、AVPN を通じてアジア・世界に発信していく。

また、2014 年度も、国際交流基金日米センター (CGP) などの助成を受け、東北の復興に取り組むリーダーたちとともに、災害 (ハリケーン・カトリナ) から 10 年目を迎える米国ニューオリンズ市を訪問させていただいた他、台湾でのソーシャルアントレプレナーに関する国際会議でのプレゼンテーションの機会も頂きました。さらには、代表の宮城は 2011 年度に世界経済フォーラム (ダボス会議) のヤング・グローバル・リーダーズに選出いただき、世界のパートナー、リーダーたちと連携、交流を推進しました。

## スペシャルサンクス

青柳 光昌	公益財団法人日本財団	佐藤 優介	株式会社おかん
浅井 峰光		沢木 恵太	株式会社ファミリーア
天辰 次郎	株式会社ウィット(グリーンハウスグループ)	島田 昌幸	
有吉 徳洋	株式会社ソーケングループ	志水 竜夫	
石川 治江	NPO法人ケアセンター・やわらぎ	所澤 新一郎	共同通信社
石原 昌尚		末村 祐子	復興庁
稲垣 文彦	公益社団法人中越防災安全推進機構	鈴木 祐司	公益財団法人地域創造基金さなぶり
井上 英之		関 治之	一般社団法人コード・フォー・ジャパン
井上 有紀		高橋 理志	エンターテイメント・キック株式会社
今井 悠介	公益社団法人チャンス・フォー・チルドレン	高橋 一朗	西武信用金庫
入部 直之	株式会社独立宣言	田嶋 雅美	株式会社フランチャイズアドバンテージ
岩切 準	NPO法人夢職人	但馬 武	
岩崎 通也	楠・岩崎法律事務所	太刀川 英輔	NOSIGNER株式会社
岩本 真実	K2インターナショナルグループ/NPO法人ヒューマンフェローシップ	寺井 元一	株式会社まちづくりクリエイティブ
宇井 吉美	株式会社aba	戸村 朝子	
上田 敬	日本経済新聞社	友廣 裕一	一般社団法人つむぎや
植村 百合香	NPO法人ブリッジフォースマイル	中澤 数人	
Wong Raymond		中村 義之	株式会社みんなのウェディング
白井 清	ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京	中村 亮太	
岡本 拓也	ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京	中山 太一	
小倉 美奈子		西田 浩	株式会社カヤック
落合 拓史	ケアプロ株式会社	仁科 慎治	
小野 裕之	NPO法人グリーンズ	野村 正則	
影山 知明	クルミドコーヒー	羽山 暁子	
籠島 康治		樋口 哲朗	樋口公認会計士事務所
壁谷 俊則	ランスタッド株式会社	福澤 匡規	
神山 晃男	株式会社こころみ	藤村 隆	ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京
川崎 聡美	D-note	發知 仁志	ソーシャルベンチャー・パートナーズ東京
菅 偉辰	株式会社リリムジカ	甫守 美沙	株式会社ビズリーチ
菊池 広人	NPO法人いわてNPO-NETサポート	前田 浩	
岸 周平	株式会社jig.jp	牧 大介	株式会社西栗倉・森の学校
呉 哲煥	NPO法人CRファクトリー	松井 敬一	K&HIRO株式会社
小足 雄高		松崎 光弘	株式会社知識創発研究所
甲田 恵子	株式会社AsMama	松崎 典子	株式会社知識創発研究所
河野 良雄	鍼灸師	松崎 英吾	日本ブラインドサッカー協会
河野 理愛	コグニティ株式会社	松山 亜紀	
越 陽二郎		丸 幸弘	株式会社リバネス
小淵 康博	西武信用金庫	水谷 衣里	三菱UFJリサーチ&コンサルティング株式会社
斉藤 徹	電通総研ビジネス・クリエーション・センター	美濃部 真光	NPO法人地球と未来の環境基金
榊原 彰		毛受 芳高	一般社団法人アスパン教育基金
阪中 真理		森山 奈美	株式会社御蔵川
坂之上 洋子	ブランド経営戦略コンサルタント	安田 裕	株式会社エグゼクティブリンク
笹木 隆之		柳澤 大輔	株式会社カヤック
佐々木 大輔		山崎 剛	株式会社グローバルエージェンツ
佐藤 真琴	株式会社PEER	山田 泰久	NPO法人CANPANセンター
佐藤 裕一		山元 圭太	NPOマネジメントラボ
佐藤 信雄		渡部 哲也	株式会社アップルファーム

(敬称略)

# FINANCIAL REPORT.

(2014年6月1日から2015年5月31日)

## 活動計算書

2014年6月1日から2015年5月31日まで

(単位:円)

### I 経常収益

1 受取会費		3,680,950
2 受取寄附金・協賛金		261,674,633
3 受取助成金等		75,292,656
4 事業収益		
① 起業家型リーダー育成事業収益(インターンシップ、横浜ランチ、震災復興事業)	88,004,984	
② 起業家型リーダーを育む社会基盤創造整備事業収益(インキュベーション、チャレンジコミュニティ事業)	317,908,212	
③ 職業紹介事業収益(DRIVE事業)	5,538,240	
④ その他この法人の目的を達成するために必要な事業収益	0	411,451,436
5 その他収益		162,310
経常収益計		752,261,985

### II 経常費用

1 事業費		
(1) 人件費		160,668,486
(2) その他経費		447,915,709
事業費計		608,584,195
2 管理費		
(1) 人件費		42,622,920
(2) その他経費		25,470,740
管理費計		68,093,660
経常費用計		676,677,855
当期経常増減額		75,584,130
	税引前当期正味財産増減額	75,584,130
	法人税、住民税及び事業税	147,778
	当期正味財産増減額	75,436,352
	前期繰越正味財産額	157,847,834
次期繰越収支差額	次期繰越正味財産額	233,284,186

## 貸借対照表

2015年5月31日現在

(単位:円)

### I 資産の部

1 流動資産		
現預金		234,343,379
(内基金残高	89,407,498)	
その他流動資産		10,980,729
流動資産合計		245,324,108
2 固定資産		14,430,408
資産合計		259,754,516

### II 負債の部

1 流動負債(未払金、未払消費税等)	26,470,330
2 固定負債	0
負債合計	26,470,330

### III 正味財産の部

前期繰越正味財産	157,847,834
当期正味財産増減額	75,436,352
正味財産合計	233,284,186
負債及び正味財産合計	259,754,516

## 基金残高(参考)

2014年6月1日から2015年5月31日まで

(単位:円)

内容	期首残高	当期増加額	当期減少額	期末残高	備考
震災復興基金	144,385,734	109,409,009	168,944,841	84,849,902	震災復興リーグ支援プロジェクト関連基金
東北オープンアカデミー	0	6,117,000	1,559,404	4,557,596	東北の可能性を体感するフィールドワーク
合計	144,385,734	115,526,009	170,504,245	89,407,498	中長期にわたり、継続活動を行うため

### 監査報告書

私は、特定非営利活動促進法第18条の規程に基づき、特定非営利活動法人エティックの2014年6月1日から2015年5月31日まで活動計算書及び貸借対照表について監査を行った。私は、理事の業務執行の状況に関する監査に当っては、理事会に出席し必要と認める場合には質問を行なった。また、経営の状況および財産の状況に関する監査に当っては、帳簿や証拠書類の閲覧、照合、質問等の合理的な保証をえるための手続きを行った。監査の結果、法人の業務は法令及び定款に基づき適正に執行され、会計処理は適正に処理されているものと認められた。よって、私は、上記の活動計算書及び貸借対照表が、特定非営利活動法人エティックの2015年5月31日をもって終了する事業年度の業務執行の状況及び同日現在の財産の状況を適正に表示しているものと認める。

2015年7月27日 特定非営利活動法人ETIC. 監事

樋口 哲朗

団体名称 **特定非営利活動法人エティック**  
所在地 〒150-0041 渋谷区神南 1-5-7 APPLE OHMI ビル 4 階  
連絡先 電話番号 03-5784-2115 FAX 番号 03-5784-2116

設立 1993 年  
法人化 2000 年 3 月  
役員 代表理事 宮城治男  
理事 石川治江 (NPO 法人ケア・センターやわらぎ 代表理事)  
理事 孫泰蔵 (Mistletoe 株式会社 代表取締役社長兼 CEO)  
理事 松本大 (マネックス証券株式会社 代表取締役社長 CEO)  
理事 鈴木敦子 (事務局長 兼任)  
理事 山内幸治 (事業統括ディレクター 兼任)  
監事 樋口哲朗 (樋口公認会計士事務所 代表)

スタッフ 75 名 (うち専従 43 名) ※2015 年 5 月現在